

ホスピス

【目標】

- 1) チームケアの充実を図り全人的ケアを提供する。
- 2) システムの評価、修正を速やかに行い稼働率維持を考えたホスピス運営を行う。
- 3) 危機管理体制を徹底し安心、安全なケアを提供する。
- 4) ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。
- 5) 病院機能評価付加受審で得た課題に取り組み、ケアの質維持向上を目指す。

【特徴】

- ① 病床数 16 床(全個室)院内独立型ホスピスである。自然に囲まれ、柔らかな雰囲気と温かさを感じられる建物であり、家庭の延長線上にあり地域と共に歩むホスピスを目指し、患者・御家族に寛いでいただける時間、空間を提供している。
- ② 人が「自分らしく生きる」ことを支えるため、全人的ケアを提供している。
- ③ ホスピスケアとして、遺族の寂しさや悲しみへのケアを細やかにおこなっている。
- ④ 医療・保健・福祉の里にあるホスピスとして地域・在宅部と連携し希望に合わせて在宅療養の支援をおこなっている。
- ⑤ 医師、看護師、コメディカル、ボランティアとチームでケアを行っている。ケアワーカー2名を導入し生活支援の拡大を図った。
- ⑥ 16床に対し看護師、18名を配置し、1：1看護体勢をとっている。
- ⑦ 東近江医療圏を中心に地域医療機関と連携をとり専門的緩和ケアを実践している。
- ⑧ 生と死を共に考える事を理念に持ち、「生」を支えるケアを啓蒙している。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院患者数(人)	8	13	11	10	15	12	12	12	9	9	13	10	134	11, 6
退院患者数(人)	11	11	13	13	19	10	15	17	8	10	15	17	159	
転入(人)	1	1	3	1	3	1	4	5	2	2	3	1	27	2, 25
病棟稼働率(%)	68, 1	87	89, 3	73, 5	78, 1	72, 5	78	85, 9	72, 6	84	95	68		79
在宅率(%)	27	27	7	7	21	1	33	0	25	40	13	23		22
平均在院日数(日)	40, 7	36, 8	37, 7	41, 7	42, 2	28, 1	30, 1	32, 9	34, 6	36, 1	37, 3	35		31.5

- ・見学者数：37人
- ・相談件数：130件
- ・外来数：445件
- ・院内コンサルテーション件数：30件
- ・インシデント件数：62件、アクシデント件数：7件

【教育】

- ・近江八幡市立看護専門学校ホスピス実習2日間：30名
- ・豊郷准看護師養成所見学実習2日間：14名
- ・ボランティア講習開催：2名受講
- ・在宅部実習生見学：2～3名を4グループ
- ・1名緩和ケア認定看護師養成学校を卒業

【研修】

- ・学会「日本死の臨床研究会」[東京]→5名参加、2症例事例検討発表
- ・ホスピス・緩和ケア協会年次大会 [東京] :2名参加
- ・京滋緩和ケア研究会年2回→各4名参加、(1名当番世話人として活動)
- ・滋賀緩和ケア研究会年2回→5名参加、(1名世話人として活動)
- ・滋賀在宅ホスピス研究会→2名参加 (1名世話人として活動)
- ・院外研修：滋賀県主催がん看護研修→5名受講
- ・緩和ケア認定看護師の活動：近江八幡看護専門学校講師，滋賀県緩和ケア認定看護師会に参加
- ・研究：「遺族ケアの充実を目指して」「悲嘆の強い家族のケアを考える」「生きることは食べること」「より質の高いケアをめざして」「最期に遺した言葉は“車イスに乗りたい”」について取り組み、院内1事例発表、院外2事例検討発表

【評価】

- ・病棟稼働率年平均：79%、0、1%目標達成に至らなかった。要因として、入院数のばらつきがあり安定した稼働となっていないことがある。しかし院内コンサル件数は30件と前年に比べ+6件であり転入に繋がってきている。外来数は月平均37名と昨年より平均4名増加している。
- ・ケアの質の向上を目指し、全員で教育プログラムの講師を務める。研究に取り組むことができた。院外で事例検討として研究発表し高い評価をもらった。
- ・全人的ケアを提供するためのチームケアの充実では課題がある。
- ・ホスピスケアにおける「生活への変化」へのアプローチは定例で行なっている。
- ・ボランティア活動の質向上を目指し認定看護師による勉強会と他施設見学を行なった。毎月のミーティングを開催しコーディネーターが中心となりチーム間の連携をとりながら活動出来た。
- ・3、1-1災害を受け緊急対応マニュアルの見直しを行ない、シュミレーションを実施スタッフの危機意識の向上を図った。
- ・デイホスピスに向け「当院での取り組み案」を作成した。
- ・昨年受審した機能評価付加審査のまとめをIT管理した。
- ・ドキュメンタリー映画「いのちが一番輝く日—あるホスピス病棟の40日—」の撮影に協力した。
- ・各種研修・実習・見学を受け入れホスピスの啓蒙につなげた。
- ・その人らしさを支援するため在宅支援をおこなった。レスパイト入院も積極的に受け入れた。

【総評】

地域に根ざしたホスピスを目指し、6年目を迎えた。ホスピス=死を言うイメージをぬぐいきれない中ではあるが、確実にホスピスケアへ認知度の高まりとのニーズを感じる年であった。ホスピス・緩和ケアの理念でもある「自分らしいQOLの向上」を支えるケアとして各種教育・研修へ取り組みは、チームとしての大きな自信となった。当ホスピスの特徴でもある在宅支援においても院内・外との連携を図り、希望するが場所での療養を支援することができた。その中で、ニーズのある“在宅ホスピス”立ち上げに向け「取り組み案」を作成した。当ホスピスを舞台とした、ドキュメンタリー映画の撮影が2ヶ月間にわたり行なわれ患者・ご家族の協力により完成に至った。この映画は人々の「生と死を考える」機会に繋がることを目的としている。

2011年度看護部 院外 教育研修

月・日	研修名	参加数
5月10日	電解質・輸液の基礎	1
6月5日	看取りとケアの実際	1
6月16日	初めての看護研究	2
6月11日	介護職研修	1
6月9日	看護研究研究計画書の書き方	1
6月21日	プリセプターシップ	2
6月23日	准看護師研修	1
6月15日	看護研究	1
7月26日	介護研修	1
7月30日	看護現場の労務管理	1
7月30日	回リハ病棟師長研修	1
8月11日	介護研修	1
8月6日	職場のいじめ。ハラスメント	1
8月23日	アサーションコーチング	3
8月10・18・24・25	介護ファーストステップ(交通費のみ)	2
	看護研究スキルアップ研修	1
8月5・6日	HIV・AIDS研修	2
9月6日	リンパ浮腫ケアに関する問題と課題	2
9月16日	看護実践における倫理	4
9月4・26日	介護ファーストステップ(交通費のみ)	2
10月1日	KOMIケア学会	1
10月7日	糖尿病専門分野看護育成研修会	1
10月14・15	災害医療と看護	1
10月21日	エビデンスに基づく感染予防	1
10月26日	病院機能評価受賞フォーラム	1
10月24日	初めての教育委員会と企画	1
10月12・13・28	介護ファーストステップ(交通費のみ)	2
11月5日	看護管理における戦略マネジメント	1
8月29～10月28日	実習指導者講習会	1
10月24日	初めての教育委員会と企画	1
11月7日	心電図の基礎と急変対応	1
11月13日	脳卒中患者の口づくり	2
11月18日	うつ症状にある患者の看護	1
11月12・13日	医療事務作業補助者研修	2
11月14・28日	介護ファーストステップ(交通費のみ)	2
11月7・8・14・15・21	認知症研修	1
11月18日	うつ症状にある患者の看護	2
12月7日	多職種協調で進めるNST実践	1
12月15日	看護の本質と技	2
12月13日	リスクマネージャー交流会	1
12月15日	看護の本質と技	3
12月17日	日本手術学会	1
	摂食嚥下障害の患者の看護	1
1月20日	排泄ケア研修	1
1月20日	介護技術・知識の向上	1
1月17日	心電図研修	1
3月10日	看護職能集会	3
3月23日	診療報酬改定	4

年次大会・各協議会への出張		参加数
6月11日	回復リハ病棟協議会 研修会	2
11月5～6	回復期リハビリステーション協議会	1
8月27～28	日本ホスピス緩和ケア協会年次大会	1
6月18日	日本ホスピス緩和ケア総会	2
10月8～10	日本死の臨床研究会	3

2011年度 看護部 研修会実施一覧表

	月 日	テーマ	対 象	担 当	講 師
第1回	5/10(火)	看護研究研修会パートⅠ	研究担当者	増田 小梶	増田 繁美 小梶 可奈
第2回	5/26(月)	移乗・体位変換について	基礎 1	太田 小西	PT 酒井
第3回	6/28(火)	退院支援について	基礎 3	吉崙 寒出	MSW 加藤
第4回	7/19(火)	リーダーシップ研修 ～コミュニケーション力～	専門 1	湊 藤原	チャプレン 安部
第5回	7/22(金)	嚥下・摂取機能について	基礎 2	小西 青西	ST 甲斐
第6回	8/29(月)	遺体管理について	基礎 1	濱野 上田	谷川 弘子
第7回	9/21(水)	創傷処置について	基礎 2	小西 青西	平野 節 Dr
第8回	9/27(火)	介護保険制度について	専門 2	前田 東森	MSW 加藤
第9回	10/12 (水)	教育委員の役割と企画	教育委員		
第10回	11/21 (月)	ストレスマネジメント	専門 1	濱野 上田	川瀬 由佳
第11回	12/1 (木)	研究研修会パートⅡ	研究担当者	小松 太田	増田 繁美 小梶 可奈
第12回	1/19・20 (木・金)	研究発表会(2日間)	全 員		
第13回	2/22・29 (水・水)	目標管理からの成長 ～ステップアップシートから～ (2日間)	専門 2	吉崙 寒出 前田 東森	塚本部長
第14回	3/12 (月)	伝達講習会	全 員	太田 小松	
第15回	3/30 (金)	看護研究研修会	研究担当者		

院内看護研究テーマ・メンバー一覧表

各部署	テーマ	メンバー
1病棟	病棟内における換気の方法の見直しおよび検討	*新堂・青西・川崎・高見・大隈
2病棟	余暇時間を楽しむ時間に ～日課に興味ある遊びリレーションを取り入れて～	*前田・小磯・西澤・梅本・太田
3病棟	NS. 在宅介護に不安のある家族の退院支援を試みて～介護スコア表を用いての取り組み～ CW. 口腔ケアの改善を試みて～スタッフの意識調査から考える～	Ns：山村・濱野・西村（浩）・大宮 CW：上田・大山・前川・西川
中 材	手洗いを見直す(手洗いキットを用いて)～手洗いの意識向上へむけて～	*山口・中川・寒出
外 来	インスリン自己注射における注射部位の皮膚硬結について～外来患者への聞き取り調査を実施して～	*寄木・布施・吉寄
ホスピス1	生きることは食べること ～最期まで食べることをあきらめなかった患者を通して～	*川瀬・中島・浅井・多田
ホスピス2	遺族ケアの現状と課題について	*高橋・川分・赤澤・坂田・谷川
ホスピス3	チームで取り組むスピリチュアルケア～アセスメントシートを活用した事例検討～	*桐畑・河田・吉田・太田
ホスピス4	悲嘆の強い家族のケアを考える ～精神症状が強く出た妻へのかかわりを振り返って～	*佐田・田中・森・山本
ホスピス5	最期に遺した言葉は「車いすに乗りたい」～患者の希望に添えなかった医療者のジレンマを考える～	川瀬・増田・太田・高橋

事務部

<活動計画及び実績>

1. 月次予算を確実に達成するために、実績の適確な分析を行う。
★実績報告において、病棟毎の推移・外来の曜日毎の推移等が経時的にできるように工夫し、問題点を明確にすることができた。月次の対策を適時行なうことができたが、次月の行動目標の設定に繋げる方策を見いだすことができなかった。次年度の課題とする。
2. 里内(老健・在宅)の連携強化を図る。
☆月次、税理士法人、院内理事を含め開催している。
資金計画、財務評価について審議を継続している。
3. 健診室の安定を図るために、引き続き、企業への営業活動や価格交渉及び二次検診に繋げ、受健者の満足度アップを含む経営管理に注力する。
☆売り上げは前年度対比4、100千円アップ【特定健診含む】
企業振込未収金ゼロを達成した。
4. 接客力の向上を図り、顧客満足につなげる。
★職場全体の風土アップに効果がでていますが、受付のプロ意識を備えることでは、継続フォローが必要と考える。
5. 療養環境と職場環境を整える。
☆庶務課を中心に、メンテナンス業務・駐車場確保等に活躍できた。修繕に対するスピード感もアップしている。
6. 託児所運営を充実させるために、シフトに合わせた開所時間の協力並びに子育て中の職員が安心して働ける風土を作る。
☆日曜祝日の開所を月3回に増やし、遅番勤務対応が出来るように週2回開所することでニーズに近づくことができた。
7. 礼拝堂(朝礼等)に集える風土づくりを推進し、メンタル的な相談窓口を担う。
★オープンチャペルを月2回開催している。この時間帯の利用者は、少ないが、個別相談に対応している。
職員礼拝・始業礼拝への呼びかけはできているが、参加することの意識改革が課題である。
8. 人・物・金に対して、費用対効果を追求するために、経営企画室の業務を強化させる。
★特記として、電子カルテ諸費用 104,864 千円(内消耗備品 7,260 千円) 福利厚生費(退職金積み立て不足への手当)の見直し実施 20,000 千円。

職員被服費(女子事務服、ケアワーカーユニフォーム配布枚数増)1,640 千円増

コピー単価引き下げ効果 1,580 千円減

消耗品費 2,200 千円減

燃料費 灯油使用量減にも係わらず単価高騰で 3,110 千円増

修繕費 1,410 千円増

器械賃借料 4,250 千円減

庶務一般経費合計 5,220 千円増

医事 未収金 1,708,651 円 前年度と比較して、485,362 円減少。

9. 電子カルテ導入に向けて、人材育成と新医事会計システムを軌道に乗せる。

☆8月の医事会計システム切り替えと24年2月の電子カルテ導入において、医事課を初めとする取り組みは大きく評価出来る。

10. 診療報酬改定に対して、医事を中心に算定残しの審議継続と来期改定の情報収集と戦略を立てる。

☆梅木コンサルタントの指導の下、セミナーにも積極的に参加し、院内説明会がスムーズに実施出来た。

11. 東近江保健医療圏地域医療再生計画に貢献するため、特に事務的な処理をスムーズに出来るよう協力する。

☆当院の特化とするリハビリテーション機能をアピールし、申請手続きを進めた。結果、三次医療圏における補助金が認可された。

12. 広報活動(広報、ホームページ、メディネット、他院への発送物など)を担う担当者を明確にし、創立者ヴォーリズ氏の働きを含む当院を、積極的に地域に宣伝する。

☆経営企画室を中心に、特に23年度はホームページ更新に推進した。メディネットについては、検討の結果、契約期間満了の24年6月を以て終了と決定。

13. 人材の育成を図り、後継者づくりを推進する。

★新人事制度の老健・本部への導入については、次年度へ繰り越しとなった。

総務課のローテーション、庶務課の管理職交替、メディカルーク起用等、課を超えた人材配置を行うことができた。モニタリングについては次年度に繰り越す。

他、診療情報管理室・地域連携課を事務部で統括した動きの中で、早朝の30分ミーティングの開催が、有機的に機能している。対外的に、病診連携の業務は地域連携課が担う運びとなった。 以上

※詳細については、各部署実績報告を参照されたい。

医事課

医療保険制度が大きく変化する中で、度重なる診療報酬の引き下げで医療収益の確保が厳しい状況にあります。平成23年8月には医事コンピューターの変更、又、平成24年2月から電子カルテの導入により、患者情報の共有化、医療の効率化が図られました。医事課にとっては診療部門の努力をいかに保険請求に反映させていくか、また、査定や返戻の減少は課題であり、日々解決策を模索しなければいけません。なお、大変厳しい経営環境にあり、医事課として出来る限りの事を考え、請求漏れ等のないよう「質の高い医療事務職員」を目指すよう心掛けました。今後は、他部署と連携をとり、病院医療がチームとしておこなわれるよう医事課として出来る事を考え、患者さんにヴォーリズ記念病院で診て貰って良かったと言われるような流れを病院として取り組む補助を行って行きたいと思えます。

【スタッフ】

14名（常勤9名、非常勤5名）

【業務内容】

- ・受付（外来、入院） ・会計 ・窓口現金徴収 ・未払い金の徴収
- ・保険請求業務 ・定期、退院会計 ・カルテ管理 ・病診連携業務
- ・統計資料作成業務 ・入退院管理業務 ・生保給付券の処理 ・諸証明の受付処理
- ・医療要否意見書の処理（生保） ・各データ資料作成 ・近畿厚生局への届出業務

【評価】

- 1、8月より自動再来器廃止に伴い、患者さんの受付を予約患者さんと予約外患者さんと分けて受付するようにした。患者さんが混乱しないよう、又、職員も今までの受付の流れが変わる事により、患者サービスが低下しないよう心がけた。しかし、変更当初3ヶ月は、長期投薬の患者さんが居られるので、いつもと違う受付の流れに変わった事に戸惑いがあり、職員も説明不足の点や接遇面で笑顔が少なくなってしまっているように感じた。他部署の協力もあり、3ヶ月以降は受付の流れも徐々に効率が良くなり、職員に余裕が出てきて接遇もゆとりをもって出来るようになってきた。
- 2、8月より医事コンピューターのメーカーが変更になり、マスター登録の変更や受付のレイアウトの変更等を行った。医事課職員が知恵を出し合い業務が効率良く行えるよう検討し、他部署にも協力して頂きながら業務効率アップに努めた。新システムにより診療報酬の減点や返戻が増えないようレセプト点検ソフトを利用し、月2回チェックを出来るが限り回数を増やし減点や返戻を減らすように努めた。
- 3、平成24年2月より電子カルテを導入することにより、他部署と連携するよう心がけた。
- 4、2012年4月より、診療報酬改定が行われるため、情報収集と勉強会を実施し請求業務の理解を高めるよう努力した。医事課職員が、自己のスキルアップに努力し、医事課全体のスキルアップに繋がるよう他部署と連携することにより、コスト意識をお互いに持ち、病院全体の健全な運営に貢献出来るように力を注いだ。一層の情報収集と診療報酬の理解を行うよう職員の意識改革を行い、請求もれがないように、又、減点や返戻の減少に努力した。
- 5、医事コンピューターの変更による運用の検討やマスター登録、電子カルテ導入に向けての準備等で残業時間を減らす事が出来なかった。
- 6、入院未収金の未収金の減少に努めた。

平成22年度入院未収金：2,194,013円

平成23年度入院未収金：1,708,651円

総務課

2011年度を振り返れば年度当初は比較的順調に数字を伸ばす事が出来たが7月以降急激に失速し、予算達成に向けては苦しい状況となった。売上の割りに非常勤医師の給与等が前年度に比べ増加したこと、職員に係る人件費(給与・退職金)が大きく膨らんだため当初の予算は達成できなかった。又、経費の部分については2月より稼動した電子カルテのインフラ整備に費用がかさむ結果となった。課内の動きとしては理事長交代による各種変更届を行い、各種申請事項も迅速に行うことが出来た。しかし、算定要件の解釈の相違により返還作業が発生し収益に大きなマイナス要因を作ってしまった。

【申請実績】

がん診療連携指導料 2011.05.01
栄養サポートチーム加算 2011.05.01
糖尿病合併症管理料 2011.05.01
地域連携診療計画管理料・地域連携診療計画退院時指導料 2011.05.01
急性期看護補助体制加算Ⅰ 2011.08.01(再申請)
療養病棟入院基本料Ⅱ 2011.09.01(再申請)
脳血管リハビリテーション料Ⅰ(従事者変更)西教医師→穂山医師
医師事務作業補助体制加算(届出区分変更)2012.02.01

【届出事項】

近畿厚生局定期報告(4月定期報告)(勤務医師の負担軽減計画の評価、看護師の負担軽減計画の評価)
病院開設者変更届(東近江保健所、近畿厚生局等)
保険医療機関指定申請書(更新)(東近江保健所)
近畿厚生局定期報告(7月定期報告)
施設基準に係る辞退届け(急性期看護補助体制加算Ⅰ)(返還期間:2011.02.01～2011.07.31)
保険医変更届(2011.08.03、2011.08.29)
麻薬取扱者の免許申請(継続)2011.11.14

【事務関連事項】

東近江保健所による医療機関立入検査(11月)

【労務・給与関係】

時間外業務の事前申請を徹底し、上長に把握してもらうことで負担の平準化を図った。又、勤務月報や各種様式の整理・統一を進め管理者の負担軽減を行った。

【託児所関係】

利用者に対し、今年度より毎月の日曜・祝日の保育(3回以上の開所)遅番勤務者に対して週2回の開所を実施してきている。利用者は少数ではあるが職員が安心して働ける環境は整いつつある。

庶務課

2011年度庶務課は、用度関連、施設・設備管理、医局事務、当直業務を主に担当している。人員は常勤5名。非常勤は、施設・設備関係1名・リネン関係1名・当直業務3名となっている。

○一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	平成22年度	平成23年度	増減
職員被服費	953,807	2,601,330	1,647,523
通信運搬費	3,888,480	3,566,532	▲ 321,948
消耗品費	16,787,378	14,580,266	▲ 2,207,112
消耗器具備品費	4,910,268	12,171,421	7,261,153
水道光熱費	26,096,920	25,958,700	▲ 138,220
事務・図書印刷費	3,345,270	1,756,575	▲ 1,588,695
燃料費	24,764,624	27,880,743	3,116,119
修繕費	5,991,053	7,403,926	1,412,873
雑費	2,271,768	2,640,244	368,476
自動車費	775,165	703,370	▲ 71,795
器械賃借料	19,188,805	14,937,606	▲ 4,251,199
合計	108,973,538	114,200,713	5,227,175

減価償却費	82,501,905	91,966,354	9,464,449
-------	------------	------------	-----------

庶務の関係する一般経費では昨年比較合計で約522万円の増となった。

職員被服費 約164万増となっているのは女子事務服を新しくしたこと、ケアカーのエフォーム配布枚数が増えたことで増えている。

通信運搬費 光回線の導入による回線使用料が減となっている。

消耗品費 220万円の減。

消耗備品費 電子カルテ導入に伴う諸備品購入で726万円の増。

水道光熱費 電気使用量が減となり、上下水道はあまり変わりなし。

事務図書印刷費 コピー単価引下効果もあり158万円減。

燃料費 灯油の使用量減、単価高騰が響き311万円の増。

LPGについては、あまり使用量に変化はない。

修繕費 141万円増。

器械賃借料 医事会計システム、ホスピス関係、CRシステムのリース満了で425万円減。

その他 SPD関連においては常に購入金額の見直しをしている。

※24年度は、従来以上にコスト意識・原価意識を高め、聖域を設けずコストカットを図るとともに、更なるエコ対策を考えていきたい。

○エネルギー関係

	平成22年度		平成23年度	
	使用量	金額(円)	使用量	金額(円)
電気(病院本体)	1,434,758 (kwh)	20,312,388	1,421,992 (kwh)	21,146,245
上水道	18,583 (m ³)	4,428,826	18,644 (m ³)	4,443,558
下水道	7,031 (m ³)	1,160,889	7,274 (m ³)	1,207,537
灯油	261,500 (L)	18,168,675	252,500 (L)	21,231,000
LPG(ホスピス)	20,282 (m ³)	5,373,266	20,625 (m ³)	4,126,437
LPG(栄養科)	3,674 (m ³)	1,041,690	3,645 (m ³)	1,033,409
合計		50,485,734		53,188,186

夏・冬の節電対策も寄与し、使用量は、前年対比相対的に横ばい又は微減。

金額面では、灯油の単価高騰の影響が大きく270万円増。

電気の最大電力が今年度は321kwとなり、前年度より△24kwで基本料金が引き下げとなる。(1年間)

○施設・設備、用度関係(10万円以上)

消防関係の修理(4月)	検査科 電子スキャロメーター(リース)
中材 滅菌ガス設備故障修理(4月)	医事コンピューター(リース)
外来女子トイレ和式から洋式へ変更工事(5月)	オリンパス内視鏡システム(リース)
本館温水ボイラー修理(6月)	防犯カメラ設置 3台(リース)
消防関係の修理(8月)	両面印刷輪転機(リース)
ソウ寮屋根防水補修(9月)	
給湯ボイラー部品交換(9月)	
本館送り高圧ケーブル取替(10月)	3病棟 リース物件の買取(割賦)
非常用発電機バッテリー・ファンベルト交換(10月)	各病棟 防水シート(割賦)
外来トイレ呼出表示器改修(11月)	
本館1階照明LED交換(12月)	
ナシクカート購入(2月)	

※施設・設備の点検整備業務を、計画立てて実践していく。

○SPD在庫推移

(単位:円、税抜)

	23/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	24/1月	2月	3月
SPD倉庫在庫合計	4,837,150	4,610,454	4,920,701	4,626,225	4,415,620	4,261,356	4,046,526	4,122,147	4,534,903	4,076,070	3,997,916	3,803,907
前年対比増減	273,681	▲11,331	21,670	241,535	10,184	▲398,515	▲569,481	▲158,793	31,909	▲458,781	▲466,453	▲634,139
部署在庫合計	4,086,699	4,049,027	4,282,693	3,979,328	4,017,867	3,914,623	4,146,002	4,146,088	4,114,463	4,065,662	4,204,059	4,121,574
前年対比増減	1,201,406	1,097,071	1,104,038	360,578	311,204	232,686	463,869	-436,444	413,236	210,807	291,831	134,361
合計	8,923,849	8,659,481	9,203,394	8,605,553	8,433,487	8,175,979	8,192,528	8,268,235	8,649,366	8,141,732	8,201,975	7,925,481
前年対比増減	1,475,087	1,085,740	1,125,708	602,113	321,388	▲165,829	▲95,612	277,651	445,145	▲247,974	▲174,622	▲499,778

地域連携課

目標

病院機能が多様化している。地域連携についての期待も大きく、院内・院外における活動の幅が広がっている。前年度からの業務を継続しつつ、今年度も活動の幅を広げる。地域連携室としての業務内容についても検討し、充実を図りたい。

活動計画

- ① 亜急性期病室、回復期リハビリ病棟、療養病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。
 - ・ 包括病棟稼動目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行う。
 - ・ 他施設、他病院との連携は最重要課題であり、お互いの利益のための調整に努める
→病院訪問を行い、顔の見える関係作りを心がけている。
 - ・ 紹介ケースに関しては、十分な情報提供を行い、早期に受け入れできるよう努める。
前日までにカルテが作成できるよう情報提供を行う。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 地域性を重視し在宅を目標とした支援を行う
 - ・ 退院については、患者や家族が安心できるよう各病棟やサービス事業者と調整、カンファレンスを行なう
 - ・ 退院後の生活の質を上げていけるよう努力する
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院や施設とも連絡を密に取り合い情報収集を行い院内に情報提供していく
 - ・ 各地域での地域連携パス会議への参加を行う。
- ④ 自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める
 - ・ 学会や研修会などの参加を積極的に行い最新情報の把握に努める
 - ・ 自己啓発を積極的に行い、知識・技術の向上に努める
 - ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努める。
- ⑤ 人材を充足し先方病院への支援を目標とし強化する。
 - ・ 地域連携室スタッフの増員を行い、地域に出て行ける人員を確保する
→6月より1名増員（非常勤）

考察（振り返り）

今年度4月より地域連携室より地域連携課として、新たなスタートとなった。6月より非常勤であるがスタッフも1名増員し業務の拡充を図っている。

地域連携課での中心業務となるMSW業務に関しては、院内での包括病棟稼動目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行うことができています。しかし後半は療養病棟・回復期リハビリ病棟についての稼働率が安定せず調整に苦慮していた。患者数の安定に必要なとされるのは、スムーズな入退院調整であるが、入退院とも課題となるものがみえる。

まず入院に関しては、ADL・認知症状況に応じての対応のため、ベッドの空きだけでの入院調整が困難な点がある。また、入浴日や週明けなどの受入れは困難なことが多く調整できる日が限られてしまう。療養病棟に関してこのような状況が顕著であり、死亡・転院などでの退院数に入院の数が追いついていない状況があった。

病棟稼働目標を意識して各スタッフが病棟と入院調整を行うが、病棟の受入れ状況の難しさとの狭間でジレンマを感じていることもある。10月に入りようやく療養病棟の病棟稼働目標・医療区分2.3受け入れ70%に近づくことができた。今後はこのままの稼働を安定するための方策を練る必要性があると感じている。

退院・転棟に関しては、主治医との退院・移動時期の目安がはっきりとせず、一般棟での在院日数が長期化するケースもあった。どの病棟で入院を継続していくことが適切なのかを医師だけでなくNs・MSW・リハビリ・コメディカルなどのチームからも相談できる体制を作る必要性も感じた。

紹介に関しては近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもあるが、今後回復期リハビリ病棟が湖東圏域・湖北圏域に開設することもあり紹介患者数の減少の可能性もある。

地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては重要になる。具体的な近江八幡市立総合医療センターとの連携方法の模索が必要である。実際に近江八幡市立総合医療センターが望んでいる調整に関しては、急性期の患者受入れのレスポンスの良さである。そのためには、外部へのPRよりも院内での統一した入院受入れ方法の拡充が急務である。

院内の足並みをそろえて紹介患者受入れを行うため、地域連携課が窓口となり紹介患者のスムーズな受入れを行うためには、ベッドコントローラーの役割の強化が必要である。現在何床の空きがあり受入れが可能なのか、病棟間の移動を行い一般病棟の受け入れを調整する機能も求められる。

電子カルテ化や病診連携機能の引継ぎも課題である。単純にスタッフの業務量も増すことが予想されるため、地域に出て行く地域連携課の立場としては、業務内容の見直しも必要である。各課への協力も依頼し業務内容の調整を行いたい。

開業医への訪問に関しては、病診連携の側面から訪問している。ここでもレスポンスのよさを求められているが、具体的に病院として何ができるのかを伝えていける手段が必要である。院内でも検討し開業医の満足が得られるよう今後も検討課題として対応していく。

診療情報管理室

(目標)

- ① 病院経営指標(機能性指標)の分析作成に努める
- ② 診療録に記載されている診療情報にチェックをかけ、カルテ開示・訴訟にたえられるものにしていく
- ③ 退院してから2週間内でサマリー完成に努める
- ④ 入院診療録の高い完成度の確立
- ⑤ 院内がん登録の準備
- ⑥ 統計資料(診療統計・疾病統計)の作成に努める
- ⑦ 2人体制による継続・人材教育に努める
- ⑧ 電子カルテ導入による情報管理の基本要件を心がける

退院患者数…1002名(H23.04～H24.03)

平均在院日数

1病棟…22.5日 2病棟…108.0日 3病棟…190.5日 ホスピス…34.7日

病棟別退院患者数

1病棟…599名 2病棟…118名 3病棟…126名 ホスピス…159名

各病棟別統計資料あり(次頁へ)

(評価 今後の課題)

2名体制となり、月別統計が行うことができ委員会での提出が可能となりました。

院内がん登録の準備は困難であったので、地域がん登録、死亡がん登録に業務を切り替えH18～H20までの死亡がん登録の提出に貢献いたしました。

(滋賀県におけるがん登録/H18・H19年標準統計完成)

また、電子カルテが2月に始まるにあたって、テンプレート等の作成を診療情報管理室が担当し少しでもDrの入力負担を軽減するためDrの聴き取りを開始、作成も行えました。

退院サマリーも100%を今年も保てた事、先生方のお陰と思っております。

今後の課題としましては、入院収益(退院)統計を作成したいましたが、外来収益統計の作成も考えて準備に入っています。

電子カルテにおけるカルテ監査は、日々の業務を監査業務と位置づけで行いますので完成された記録になると考えます。

また、電子保存3原則を基準とした安全要件を満たすよう院内への周知を心がけていきたいと思っております。

1病棟

月別
平均在院日数

	退院数	入院日数 合計	平均 在院日数
4月	45	991	22.0
5月	51	1039	20.4
6月	47	1079	23.0
7月	57	1218	21.4
8月	49	1232	25.1
9月	61	1413	23.2
10月	57	1064	18.7
11月	55	1480	26.9
12月	48	956	19.9
1月	42	965	23.0
2月	47	1246	26.5
3月	40	806	20.2
年間	599	13489	22.5



月別 在院日数ワースト10

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4月	164	107	75	69	47	44	32	29	27	25
5月	174	67	60	50	44	35	32	30	31	29
6月	148	76	70	65	46	45	40	40	37	35
7月	94	90	76	66	58	48	47	42	42	34
8月	191	106	86	81	56	55	40	37	34	32
9月	180	179	85	61	42	42	40	38	38	31
10月	127	74	48	44	39	38	38	38	36	33
11月	257	222	148	83	53	42	33	32	32	32
12月	100	80	76	72	60	53	52	35	33	26
1月	153	133	126	61	39	36	32	31	29	24
2月	98	85	72	70	70	62	59	57	54	51
3月	139	78	73	50	42	39	34	27	25	24

- ・5月…174日、8月…191・106日、9月…180日、11月…222日、1月…153日は、リハビリや療養のため、2病棟、3病棟に入院後、最終的に1病棟に転棟して退院した患者
- ・2月は50日越えがすでに10名の患者さんにみられた

2病棟

2病棟 年間退院数…118名

脳血管疾患 50名

視床出血	I610	11
脳梗塞	I639	6
脳梗塞後遺症	I693	6

大腿骨・その他骨折 59名

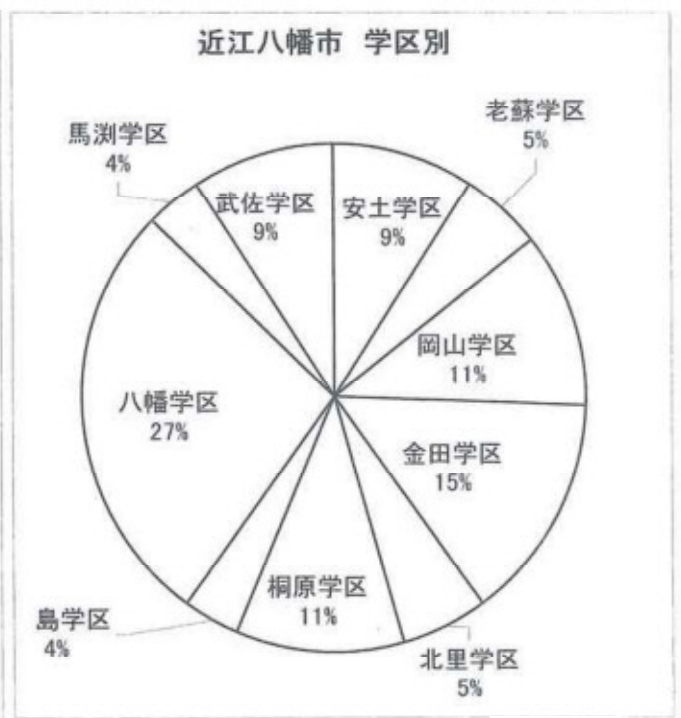
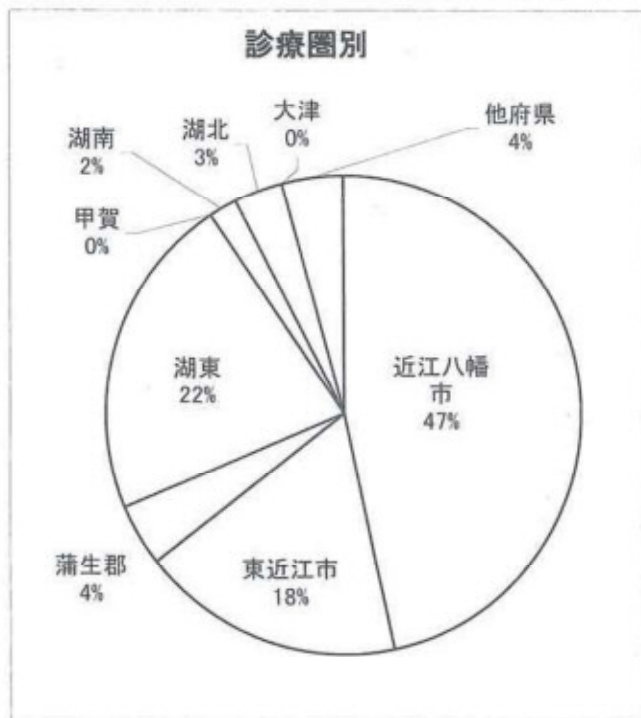
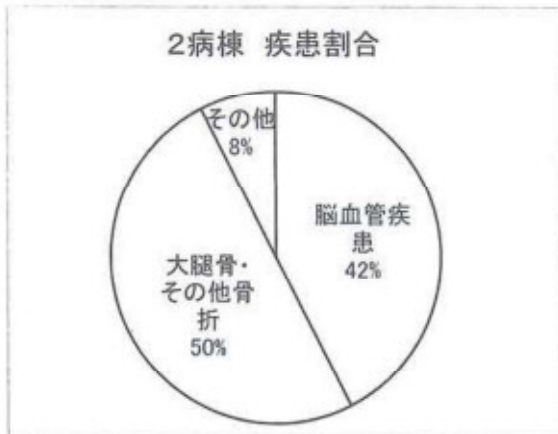
大腿骨転子部骨折	S7210	24
大腿骨頸部骨折	S7200	14
腰椎圧迫骨折	S3200	7

その他 9名

頸髄損傷	S141	2
頭蓋内損傷	S06	2

診療圏別・学区別

	人数
全体	118
近江八幡市	55
安土学区	5
老蘇学区	3
岡山学区	6
金田学区	8
北里学区	3
桐原学区	6
島学区	2
八幡学区	15
馬淵学区	2
武佐学区	5
東近江市	21
蒲生郡	5
湖東	26
彦根市	24
犬上郡	2
甲賀	0
湖南	2
野洲市	1
草津市	1
湖北	4
米原市	2
長浜市	2
大津	0
他府県	5
京都府	3
東京都	1
岡山県	1



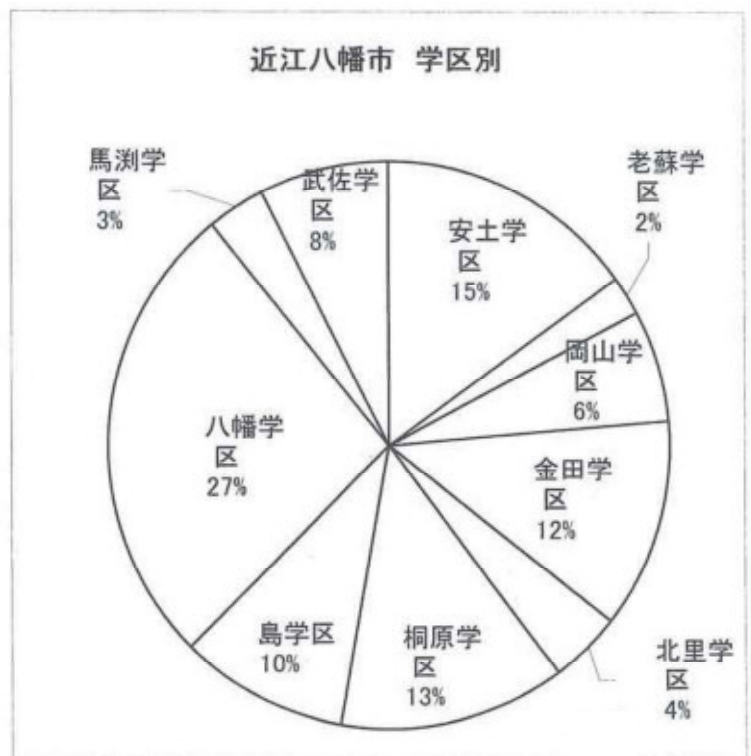
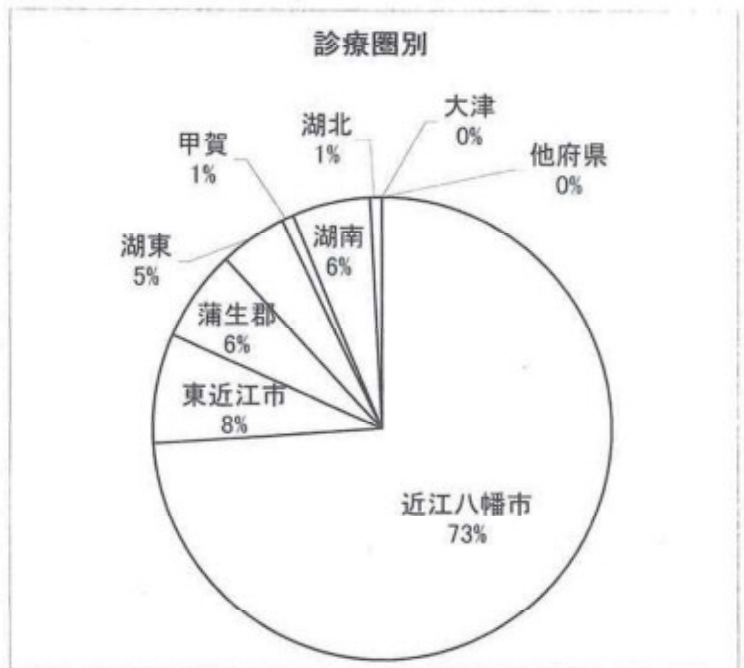
3病棟

3病棟 年間退院数…126名

順位	疾患名	ICD-10	人数	全体率
1	脳血管疾患の後遺症	I69	16	12.70
2	脳梗塞	I63	7	5.56
2	パーキンソン病	G20	7	5.56
4	基底核・変性疾患	G23	6	4.76
4	アルツハイマー病	G30	6	4.76
4	心不全(慢性)	I50	6	4.76
4	肺炎	J18	6	4.76

診療圏別・学区別

	人数
全体	126
近江八幡市	93
安土学区	14
老蘇学区	2
岡山学区	6
金田学区	11
北里学区	4
桐原学区	12
島学区	9
八幡学区	25
馬淵学区	3
武佐学区	7
東近江市	10
蒲生郡	8
湖東	6
彦根市	5
愛知郡	1
甲賀	1
湖南市	1
湖南	7
野洲市	5
守山市	1
草津市	1
湖北	1
長浜市	1
大津	0
他府県	0



ホスピス

ホスピス 年間退院数…159名

新生物の種類

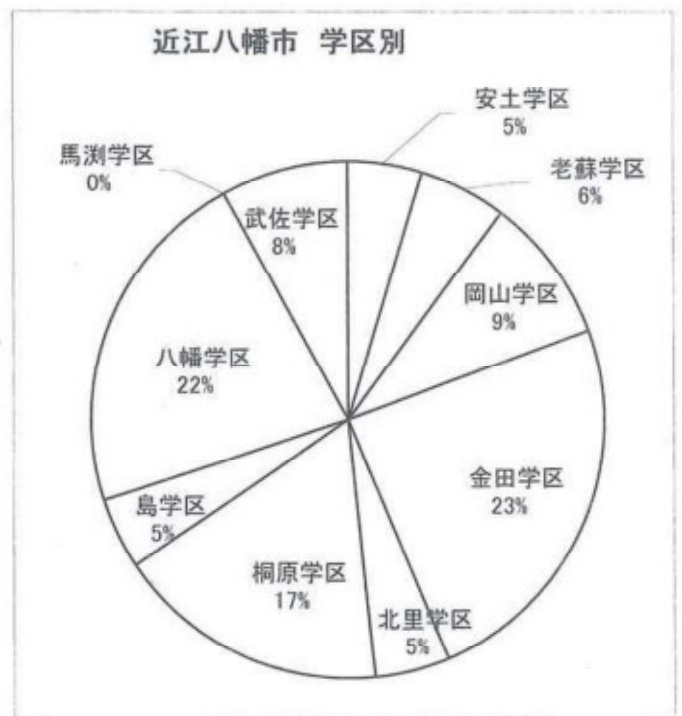
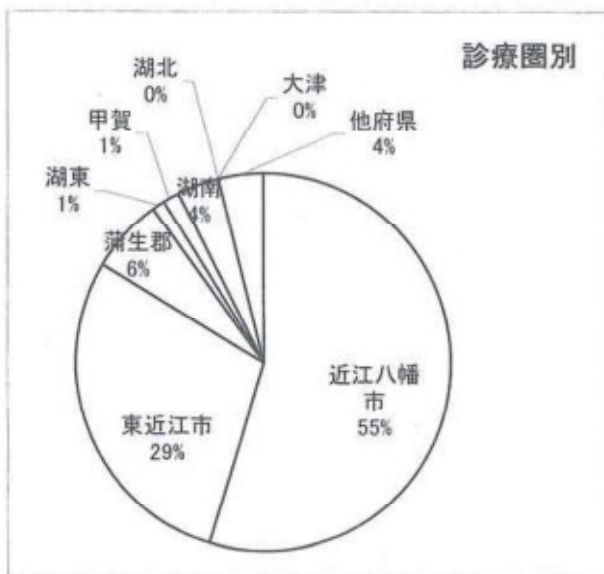
疾患名	ICD-10	人数	全体率
肺癌	C34	30	18.87
胃癌	C16	27	16.98
肝(肝内胆管)癌	C22	15	9.43
膵癌	C25	12	7.55
結腸癌	C18	11	6.92
乳癌	C50	6	3.77
膀胱癌	C67	6	3.77
直腸癌	C20	5	3.14
腎癌	C64	4	2.52
胆道癌	C24	4	2.52
胆のう癌	C23	3	1.89
卵巣癌	C56	3	1.89
前立腺癌	C61	3	1.89
皮膚癌	C44	3	1.89
耳下腺癌	C07	2	1.26
食道癌	C15	2	1.26
副鼻腔癌	C31	2	1.26
喉頭癌	C32	2	1.26
子宮体癌	C54	2	1.26
尿管癌	C66	2	1.26
甲状腺癌	C73	2	1.26
口腔癌	C06	1	0.63
小腸癌	C17	1	0.63
皮膚の悪性黒色腫	C43	1	0.63
腹膜癌	C48	1	0.63
子宮癌	C55	1	0.63
神経膠芽腫	C71	1	0.63
転移性肺癌	C78	1	0.63
悪性リンパ腫	C85	1	0.63

その他

HIV感染症	B24	3	1.89
骨髄異形成症候群	D469	1	0.63

診療圏別・学区別

	人数
全体	159
近江八幡市	87
安土学区	4
老蘇学区	5
岡山学区	8
金田学区	21
北里学区	4
桐原学区	15
島学区	4
八幡学区	19
馬淵学区	0
武佐学区	7
東近江市	46
蒲生郡	10
湖東	2
愛知郡	1
彦根市	1
甲賀	2
湖南市	1
甲賀市	1
湖南	6
野洲市	4
守山市	2
湖北	0
大津	0
他府県	6
京都	2
大阪	2
北九州市	2



礼拝堂

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝は昨年に比べ横ばい。参加することへの意識を高めるため、案内を毎月各部署へ配布。病院の基本理念確認の時であり、自分たちの勤労意識を定める時であると認識して参加を促したい。毎週月曜の職員礼拝は人数が定着しているが、より一層の参加を願う。毎週木曜日、言語療法室において「チャペルアワー」を行っているが、参加が途絶える日もあり寂しい。
- ② 病床訪問は昨年度より減少。訪問のあり方について模索している。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着しつつある。今後、参加者のレパートリーを増やしていければと願っている。
- ④ オープンチャペルの利用者はあまりいないが、個別に相談などがある。普段、精神的な危機に直面する時でなければなかなか足を運ぶこともないと思われるが、「いつでもいける」との思い、「あの時間には」との思いを持つことでの安心感を提供したい。次年度は礼拝堂委員と委員会として活動について取り組みを進めたい。
- ⑤ 全人的ケア推進委員会の一員として事例検討会を推進してきたが、その中にチャプレンとしてカンファレンスに参加する機会を増すよう努めたが、定着には至っていない。

2 全体まとめ

- ① 秋季追悼会の参加者は減少傾向にある。ただ平均して10～20%の出席率という点からみたら平均範囲内とも言える。委員会主催の行事ではあるが、もっと病院行事として広く周知し病棟スタッフ、特に医師の参加をお願いしたい。減少の原因は日程設定など物理的なことも要因としてあげられるが、減少の要因を推測する中で日々の治療やケアについての振り返りも必要かもしれない。
- ② 患者様へのチャプレンとしての関わりを中心に行っているが、職員に向けても必要な働きかけをしたい。病院の調整機能を果たせればと願うがまだ充分活かすことができていない。
- ③ 今年度も基本理念研修を担当。理念の徹底は病院の働きの柱であるとの認識は深まりつつ在るように思う。また次年度要望されれば検討していきたい。

3 総括

- ① 着任4年目、追悼会は落ち着いて運営にあたる。ターミナルケア講演会の運営も職員の意欲の低下に苦慮。改めてチャプレンとして病棟での働きを積極的に展開するように心がけた。今後研鑽を益々積むよう心がけたい。
- ② 今年はターミナルケア講演会の実行委員として力を注いだ年度であった。十分に役割を果たしたと言うことは難しく、課題も残った。概ねよい評価をいただいたが、今後病院の働き、また職員教育という観点から次代の方へと引き継ぎたい。
- ③ 理念、および研修の質を検討し、職員の意識を向上させることが必要であると実感。

健 診 室

【運営方針】

1. 健診室は、健診の予約から、結果発送までの業務を行う。
2. 受診者が安心して、スムーズに検査を受けられるよう配慮する。
3. 健診結果においては、遅延なく受診者に発送し、健康管理に役立てていただけるよう配慮する。
4. 健診結果を社員様の健康管理に役立てていただけるよう、企業健診担当者様と連携をとる。
5. 他院の健診業務に関する情報の収集を行い、健診業務の向上に努める。
6. 健診関係部署と連携をとり、健診業務がスムーズに行えるよう調整をおこなう。

【スタッフ】

4名・・・ 常勤2名 非常勤2名（午前勤務1名）

【業務内容】

1. 契約・・・各企業、健康保険組合、全国健康保険協会、総合医療センターなど
2. 予約受付・・・担当者・受診者からの予約電話対応・窓口対応
3. 健診案内送付・・・健診日より2週間までに郵送
4. カルテ準備・・・週単位にて準備、及び新規作成
5. 事前準備・・・毎日
6. 検査関連部署へ予約状況連絡・・・日単位・週単位
7. 当日受付・案内・・・毎日
8. 結果入力・チェック・郵送・・・毎日
9. 請求・集計・・・各企業月締め請求、入金確認、売上報告
10. 職員健診・・・年2回、総合医療センターへ乳がん・子宮がん検診依頼

【評価と計画】

前年度の企業振込未収ゼロを目指す目標を無事に今年度は達成致しました。

本年度の売上は、目標の4,800万円を超える5,100万円を達成でき、前年度よりも410万円増収した。

- ① 来年度は新人教育を踏まえ、新規開拓・受診数増加の為の接遇・マナー・電話対応等の向上を行い、健診室の質の向上を目指します。
- ② 2次検診の受付（依頼）→診察（検査）までの流れをスムーズに行い、1次健診を受けたアフターの質の向上を目指します。
- ③ 年々増え続けている健診の受診増加が高い今、他の病院が予約いっぱい数ヶ月先待ち状態・早々の予約が入らないと断られ、当院に健診の申込依頼があるのを断るわけにはいきません。1日の受診枠数を上げて検査がスムーズに流れる様な、運用作りを考えていかなければなりません。それには、放射線科・検査科・外来等皆様の協力・力がなくては絶対に出来ない事です。前年よりも更に無理なお願いをしますが、宜しく御願い致します。

平成23年度 在宅サービス部門

在宅サービス部門(訪問看護、居宅、訪問介護)は、W.M.ヴォーリズの基本理念のもと「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」において、スタッフ総勢28名という少人数での運営を継続している。地域の医療機関をはじめ、各サービス機関との連携を重視しながら、利用者の確保と信頼の構築に努めている。

平成23年度は、3事業所合わせて経常利益が 14,000 千円を超える黒字を納めることができ、各事業所のスタッフの日々の惜しみない努力と業績に感謝したい。

訪問看護ステーションは県内でも大規模の訪問看護ステーションの一つとして、年齢を問わない医療依存度の高い重症ケースを引き受けられるステーションに成長してきている。また、難病をはじめ困難ケースにも取り組んでいることは、開業医をはじめ行政や医療機関・他ステーション等からも高評価を得ている。今年度は、在宅看取りを 25 ケース行い、在宅ターミナルケアの充実にも取り組むことができた。また、理学療法士の非常勤を1名増やし、リハビリの充実にも先駆けて、予算をはるかに超える約 10,000 千円の高収益をあげることができた。しかしながら、訪問看護師は常勤換算 8.6 名で、人材育成と充足が今後も大きな課題である。

居宅介護支援事業所は、4.0 名の少人数ではあるが、モニタリングをはじめ利用者・家族のニーズに対する迅速かつ的確な対応とマネジメントで高収益をあげた。「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」内の連携を充実させているのも他の事業所にない力といえる。今後も地域からの信頼に応えるごとくニーズは増すばかりであるが、受け入れ件数に制限があり、人材の確保を考えていく必要がある。

ホームヘルプステーションは、地域性からニーズに偏りがあり収益としては伸び悩んだ年であったが、スタッフ一丸となって利用者確保に努め黒字決算で締めくくることができた。介護職員処遇改善給付金制度の申請・交付の継続により、よりモチベーションも高められた。毎月行っている定例会議でも、介護技術の統一や経営の参画など新たな能力育成にも積極的に取り組んでいる。

介護予防拠点事業は、アンドリュース記念館でのゴムバンド体操教室や歌声サロン、介護予防教室を開催してきた。今年度は、財団本部・病院・老健・在宅の協力体制の充実で、それぞれの負担も軽減できたと思える。地域住民からも好評価で参加者も減ることなく順調に運営できている。

在宅サービス部門3事業所は、「里」における様々な部署に支えられながら今日まで頑張ることができたといえる。各事業所の小さい力が一丸となって、財団の経営に貢献できることは喜びでもある。また、地域から「ヴォーリズの在宅サービス部門」を選んでいただけることが最大の喜びでもありエネルギーにもなっている。しかしながら、予てより職場環境の問題と人材不足はなかなか解決できていない。平成 25 年着工予定の「リハセンター(仮)」に在宅サービス部門も入設し、今以上にモチベーションを高め地域に貢献するとともに病院の方向性に沿っていきたいと考える。そして、現在までの資産を在宅サービス部門の新たな事務所建築のためと病院の新たな事業展開に協力していきたいと考える。地域をはじめ財団や病院が「在宅サービス部門」を評価し期待されているからこそ、今まで以上に3事業所スタッフ全員の「里」の運営・経営に対するモチベーションを高め、「ヴォーリズの理念」に応えていきたい。

(財) 近江兄弟社 訪問看護ステーション ヴォーリズ

当ステーションは、滋賀県内でも大規模の訪問看護ステーションの一つになってきており、赤ちゃんから高齢の方まで幅広い利用者像で重症・困難ケースも増えてきている。新規利用者数は月約6名だが重症ケースが多く在宅ターミナルケアが急増している。在宅での看取りも昨年に比べ9名増の25名となった。経常利益も約11,000千円と予算より大幅に上回る事ができた。利用者数は106~122名だが、昨年より訪問件数が増えている。また、医療保険での訪問件数が急増し、年度末には5:5という考えられぬ比率となった。24時間緊急時対応体制で取り組んでいるが重症が多いため緊急訪問も比例して多くなっている。訪問看護師は充足できず地域からのニーズは増えるばかりで、訪問看護師の休息も十分にとれず緊張の絶えないハードな1年であった。

1、訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医保	196	237	284	280	305	281	271	266	263	257	313	336
介保	404	402	426	404	403	422	386	369	362	330	352	382

2、訪問件数比率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医保	32	36	33	41	43	40	41	42	42	44	47	47
介保	68	64	67	59	57	60	59	58	58	56	53	53

3、スタッフ数と訪問形態

今年度訪問看護師11名(常勤6名、非常勤5名)のスタートであったが、常勤の入職・退職が各1名、2月からは常勤1名の復職もあった。3月末の時点では常勤1名退職し訪問看護師11名(常勤6名、非常勤5名)で常勤換算8.6名に減少している。しかしながら、経験年数豊富なスタッフで対応できており、緊急時対応も8名で行えている。スタッフは、2チームで構成し、リーダーがまとめ役を担っている。その他に理学療法士1名(非常勤)も増員し計2名となり、事務員1名(非常勤)がいる。

4、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」との連携

併設する「ホスピス」との毎週のカンファレンスや地域連携課との毎月の情報交換会をはじめ、病院・老健看護部とのシームレスなケアの充実を目指した話し合いを継続できている。在宅から病院・老健へサマリーの充実と、病院から在宅へは病棟訪問を初め退院前カンファレンスの出席等その流れに沿ってご利用者・ご家族が安心して「ヴォーリズ」の各部門に任せただけできるよう日々努めている。

4、教育研修等

訪問看護に対する知識・技術の向上に向けて様々な専門研修(認知症の看護、小児訪問看護、フィジカルアセスメント、在宅ターミナルケア、難病看護など)に積極的に参加した。また、県医師会との「在宅療養システム」の参加や潜在看護師対象の講義等外部の講義も担当してきた。

5、今後の課題

在宅医療推進の中、4月からは訪問看護に対する制度改定での加算等期待も大きい。今後も地域の方々が安心して「その人らしく」在宅で療養していただくために(できることなら最期まで在宅で)、利用者・家族の希望にできるだけ応えられるようさらに「里」や地域の医療機関・関係職種と連携し、「ヴォーリズの訪問看護」の質の向上に努めたい。また、働きやすいいきいきとした職場作りとして事業所の新設を検討しつつ、スタッフの処遇改善を考えながら定着化・増員を目指したい。

(財) 近江兄弟社 ヴォーリズ居宅介護支援事業所

平成 23 年度は、要支援 1 から要介護 5 の利用者のケアプラン作成と、里の相談窓口として、入所や入院されている方への介護相談、他市町村からケアハウスへ入所された際の様々な不安への対応を活動の主な内容とした。

1・月別利用者数（給付実績）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	144	143	147	145	143	148	148	152	152	147	145	150

2. 職員構成 主任介護支援専門員 2 名（専任）・介護支援専門員 2 名（専任）・事務員 2 名（兼務）

3. 同一法人内事業所との連携

利用者の利用事業所別内訳を行うと、同法人利用率は通所リハビリ、訪問看護、訪問リハビリについては常に 90%以上であり、訪問介護は 40%前後である。看護やリハビリについては事業所数が少ないこともあり高値となる。主治医別では 30%程度である。新規の契約については、当院回復期リハビリ病棟からの退院後が最も多い。

4. 行政、外部医療機関、在宅サービス事業所との連携

平成 23 年度近江八幡市居宅介護支援事業所協議会の会長を担い、一年間の活動の中心として行政や医師会、各事業所と連携を取り行った。往診を求める利用者が年々増え続けており、往診の出来る開業医を紹介し、またそこからの依頼もあり、利用者を通じての連携の幅が広がった。市内の介護事業所も多くなり、特にデイサービスが増加している。利用者で紹介する際にその方に適したところかを見極めるためできるだけ訪問し、スタッフとのコミュニケーションを取り確かめることを基本とした。

5. 外部研修参加実績

- ・ 主任介護支援専門員研修
- ・ ケア会議の技術
- ・ 認知症研修
- ・ アセスメント、モニタリング研修
- ・ 在宅医療、看取り推進研修
- ・ 介護保険改正
- ・ 高齢者虐待予防研修
- ・ 介護人材を巡る最近の議論と課題

6. 評価、今後の課題

介護保険制度ができ、早くも 13 年目をむかえた。市内の居宅介護支援事業所も 30 カ所を超え、ヴォーリズの特徴を活かした、利用者が必要とされる事業所であることが重要であると実感している。利用者へのアンケート調査を行い、利用者は、基本的な信頼関係を築いた上で、安心して任せられるケアマネージャーを求めていることが分かった。生活に大きな変化が生まれなくても、いきいきと療養していただけることと、いつでも気軽に話ができる身近な相談相手として、私た

(財) 近江兄弟社 ホームヘルパーステーションヴォーリス

平成 23 年度はニーズに偏りがあり収益としては伸び悩んだ年であったが、スタッフ一丸となって利用者確保に努め黒字決算で締めくくる事ができた。12 月に常勤職員一名増員、3 月にパート職員定年退職と上手く入れ替わる事ができサービス提供に支障はなかった。

1. 訪問回数（平成 23 年度）

(1) 介護保険

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	936	907	964	905	921	840	792	858	792	796	873	905

(2) 障害者自立支援費

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	70	73	70	69	64	63	82	92	85	83	94	120

2. 活動体制

管理者 1 名(サービス提供責任者・介護従事者兼務) 介護従事者 10 名(常勤 6 名、非常勤 4 名) 事務職員(介護従事者兼務)の体制で活動を実施。

	常 勤	非 常 勤	資 格 等
管理者	1 名(サービス提供責任者兼務)		介護福祉士
サービス提供責任者	3 名		介護福祉士
介護従事者	6 名	4 名	介護福祉士・介護職員基礎研修修了者
事務職員	1 名(介護従事者兼務)		2 級ヘルパー修了者

3. 在宅事業所との連携

平成 23 年度末の介護保険利用者数 82 名(実人数) 支援費利用者数 8 名(実人数)と前年度より増えている。介護保険利用者(要介護) 82 名中、ヴォーリス居宅介護支援事業所からのサービス提供は 20%、ヴォーリス記念病院を主治医とするサービス提供は 32%となっている。空き状況を伝えやすく、ヴォーリス居宅支援事業所からのサービス提供は即サービスに繋がり連携が活かされている。

4. 研修

ヴォーリス記念病院の職員として院内の研修には全員が参加することができた。

認知症研修等、スキルアップ研修にも経験年数に応じ参加、その他、虐待等の研修にも積極的に参加することができた。

5. 評価と今後の課題

訪問従事者 10 名中介護福祉士 8 名、介護職員基礎研修課程修了者 1 名、ヘルパー 2 級(事務職兼務) 1 名と昨年に引き続き事業所のキャリアアップを推進できている。今後も地域から信頼される事業所を目指していきたい。厳しい経営状況の中、事業継続のため効率のよい運営が出来るよう努力していきたい。

平成23年度 介護予防拠点事業活動報告書

○介護予防教室

	内容・テーマ	講師等	参加人数
5月	懐かしのコマーシャルソングを唄おう	小さな文化を作る会 千賀 伸一氏	11名
6月	丈夫な骨づくりの運動実践	ヴォーリズ記念病院 理学療法士 林 亜佑美氏	19名
7月	眼と運動の関係性 眼の動かし方で動作が変わる	ヴォーリズ記念病院 理学療法士 酒井 英志氏	19名
10月	ヴォーリズの歴史	財団本部事務局 事務局長 藤田 宗太郎氏	9名
12月	折り紙を楽しもう PART II	ヴォーリズ老健センター 施設長 鈴木 輝康氏	17名
2月	骨盤の動きを理解 骨盤の気づきと効率的な動作について	ヴォーリズ記念病院 理学療法士 酒井 英志氏	19名
計			94名

○ゴムバンド教室 (毎週月曜日)

	回数	参加延べ人数
4月	4回	42名
5月	5回	54名
6月	4回	41名
7月	3回	27名
9月	2回	27名
10月	4回	39名
11月	4回	39名
12月	2回	18名
1月	2回	21名
2月	4回	33名
3月	4回	26名
計	38回	367名

○歌声サロン

	参加人数
4月	29名
5月	23名
6月	24名
7月	21名
9月	21名
10月	20名
11月	23名
12月	17名
2月	24名
3月	23名
計	225名

2011 年度 委員会報告

業務連絡・業務改善 委員会

人員構成

委員長： 周防正史

副委員長： 澤谷 久枝

委員構成： 医局（2名）事務長・栄養科（1名）・看護部（8名）在宅部（1名）
リハビリテーション科（1名）薬局（1名）・医事課（1名）健診室（1名）
総務課（2名）検査科（1名）放射線科（1名）地域連携課（1名）
診療情報室（1名）庶務課（1名）礼拝堂（1名）IT対策室（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 院内の情報発信・情報管理と整理について
 - 院内メールと AiPO の使い分け
 - Beat-box の廃止に伴う代替案と周知
- ・ IT 対策委員会の役割と具体的な業務内容の明確化
- ・ 退院アンケート・“みなさまの声に” に対する回答と解決への対策、実施
- ・ 外部からの情報（文書、電文等）受け取り、配信、送信する部署の一元化を検討する（指定部署以外で来るアンケート依頼、配付文書等を統括する）
- ・ 院内感染の発生時の通達方法と院内、外への周知。
- ・ “ケアサポート” の導入。
- ・ 電子カルテ導入の準備
 - ワーキンググループの役割とメンバー選出
 - セキュリティ、ウイルス対策の検討
 - トラブル発生等を統括する部署の決定
 - 運用マニュアルの整備

24年度に向けての課題

- ・ 業務改善に向けての PDCA の徹底と周知
- ・ IT システム・電子カルテのスムーズな運用
- ・ 退院アンケート項目の検討
 - 医療の質向上、環境・設備・職員の接遇向上等に活かす

給与・規約 委員会

人員構成

委員長： 澤谷 久枝

副委員長：

委員構成： 病院管理職：診療技術部（1名）・看護部（1名）・事務部（1名）
職員会：会長（1名）副会長（2名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・規約の見直し
送別会の補助金申請の改正について
夏季、冬季の賞与について
- ・新賃金制度について
新人事制度を使って、初めての昇格、昇給を執行した。

24年度に向けての課題

- ・給与、規約改正について
給与体系・規約についてプロジェクトチームの立ち上げを行なう。
討議項目、人選、進め方の検討
- ・新人事制度の確立、運用の周知
昇給、昇格の仕組みの“見える化”と部署間の不均等を均一化する方法
面接技法を含み適正評価が出来るような評価者の訓練
次期課題が明確になるようステップアップシートの見直しが必要
新規採用者、中途採用者への指導

自衛消防隊

人員構成

委員長： 周防正史 自衛消防隊隊長

副委員長： 濱野晃資 防火管理者

委員構成： 隊長（1名）・防火管理者（1名）・各班長（3名）・救護係（1名）
事務部（2名）・診療技術部（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・9/29 自衛消防隊（防火）委員会を開催
年2回の避難訓練等の実施に向け、訓練日時と訓練内容を定める。
10/3 自衛消防隊、事前打合せを行う。10月に各部署で夜間の通報訓練を実施。
本館、別館にスカイダーの設置見積りを提示する。
- ・10/18 避難訓練と消火器取扱い訓練をホスピス病棟にて実施。
- ・3/13 自衛消防隊（防火）委員会を開催。
前回の訓練の反省を踏まえ、階段での担送患者避難は、不可能と判明。次回訓練までに何か良い方法を考える。（コンパネで滑り台のようなものを作製し、模擬患者を布団に乗せ滑りながら避難を試みる）
- ・3/26 2回目の避難訓練と消火器取扱い訓練を1病棟にて実施。消火訓練は実際に消火器にて消火する。
- ・平成24年4月より病院防火管理者・里の統括防火管理者の変更。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・自衛消防隊 各班別行動の徹底と教育。
- ・災害マニュアルの見直し。
- ・消防用防具、避難用具等の整備。

安全衛生委員会

人員構成

委員長： 古武まゆみ

副委員長： _____

委員構成： 産業医（1名）・衛生管理者（1名）・看護師（3名）
総務（1名）・健診室（1名）・職員会会長（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 全職員対象に「こころの健康」問診を実施し、結果を集計して院内合同発表会にてポスター発表を実施した。
- ・ 安全衛生委員会主催、近江八幡市福祉子ども部健康推進課による「心の健康 出前講座」を実施した。
- ・ 各部署の職場環境、衛生状態確認をチェック項目に添い院内巡視を実施し、改善箇所の確認と改善を図った。
- ・ 職員健診にメンタル面の問診を入れ、医師の診察を取り入れ、早期に職員のメンタルチェック、専門医の受診に繋げる。
- ・ 入社健診に水痘・流行性耳下腺炎・風疹の既往の問診を導入した。現職職員の麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘既往歴ワクチン接種状況を把握した。職員健診項目に HbA1C を追加した。
- ・ 職員へのインフルエンザワクチンの接種、新入職者への HB ワクチン接種（対象職種）
- ・ 針刺し防止のため、ポスターを作成し職員の啓蒙を実施した。H23 年度 1 件。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 電子カルテに移行することで職員カルテの管理、閲覧権限者の確定と運用
- ・ 職員のメンタルケアについて、社会資源を活用して取り組む。
- ・ 職員健診 100%の受診を目指す。（非常勤者・医師に注力）
婦人科健診の受診を徹底する。
- ・ 健診での異常通知者の再診率を上げる

人員構成

委員長： 奥村 万寿美

副委員長： 久村 良美

委員構成： 医師（1名）管理栄養士（1名）・調理（1名）・看護師（5名）
介護福祉士（2名）・医事（1名）・看護助手（2名）
リハビリ ST（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 栄養管理委員会の規定見直し
- ・ 栄養、調理に関する業務改善
- ・ 配膳、下膳に関する運用の業務改善
集膳車の変更と回収について病棟と話し合う。
集配方法の変更
- ・ 行事食のあり方
- ・ VF 検査の関する他部署との調整
- ・ 「NST チーム」についての勉強会開催
研修テーマ「NST の意義とその効果」

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 電子カルテ部門システムのトラブルの解消
- ・ 病態に応じた食事（治療食）提供ができる事（医師への理解を求める）
- ・ 栄養指導の充実
- ・ NST 活動の普及
- ・ 嚥下食の充実
- ・ 濃厚流動食の検討・整理

広報委員会

人員構成

委員長： 櫻井 卓哉

副委員長：

委員構成： チャプレン（1名）・介護福祉士（1名）・リハビリ ST（1名）
総務（2名）庶務（1名）在宅（1名）・看護師助手（1名）
健診室（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 病院広報誌“ヴォーリスだより” 毎月の発行
毎月の内容検討、原稿依頼、編集、校正、発刊
- ・ ホームページの充実について検討
担当者の選出、HPの具体的な内容検討、業者選択
- ・ 外来フロアーにあるメディネット（医療情報、診療状況など情報の表示画面）の活用について検討

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 広報誌、HPを含め、広報を充実させる。
- ・ 広報誌“ヴォーリスだより”の継続的な発刊

接遇 委員会

人員構成

委員長： 河瀬 ゆかり

副委員長：

委員構成： 医師（1名）・看護師（3名）介護福祉士（1名）・医事（1名）
総務（1名）老健職員（3名）・リハビリ（1名）・その他（3名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 職員の接遇に関する、質向上に向けての取り組み。
研修会の実施
 - ① 新人接遇研修：4月 4日 13：30～16：30
 - ② “ヴォーリズ医療、福祉の里” 全体の接遇研修
9月29日・10月4日・10月11日 16：00～18：00
3回 実施。不参加者へはレポートの提出とした。
- ・ 各職場での接遇の質を向上させる。
“明るい職場づくり” を実行する。各職場に「スマイルリーダー」設置する。
毎月リーダーからの報告と改善を確認する。
- ・ 毎月の標語作成と周知
各部署の毎朝、朝礼にて復唱する

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 接遇研修の組み見立てを行なう。
テーマ・講師・時期の検討
- ・ スマイルリーダーの活用。
職場の活性化と接遇改善、向上を図る

臨床検査適正化 委員会

人員構成

委員長： 総江 賢二

副委員長：

委員構成： 医師（1名）・薬剤師（1名）・看護師（1名）
検査技師（2名）医事課（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 精度管理
 - 外部精度管理：日本医師会精度管理事業の結果報告。285点満点中284点の高評価をえる。
生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門血・血液部門すべてA評価
 - 内部精度管理：検査センター メディックから問題なしの評価を得る。
- ・ 他部門との連携、業務確認について
 - 電子カルテに関する申し合わせ事項の確認と周知
 - 患者用血糖測定器から電子カルテへ血糖値取り込みの提案
 - 院内用血糖測定器の提案
 - HbA1C 院内検査の流れについて
 - 院内至急検査の追加項目の報告
 - 薬剤感受性の会計処理について
 - 交差適合試験の血清保存時期の確認
- ・ 教育と研修の実施
 - 自部署、他部署への指導、教育、提案の実施

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 精度管理の続行
- ・ 電子カルテに関する運用
 - 他部門との共有と連携
- ・ 他部署への研修と教育

医療安全管理リスクマネジメント部会 委員会

人員構成

委員長： 酒井英志

副委員長：

委員構成： 医局（1名）・給食（1名）・看護師（6名）
介護福祉士（1名）・薬剤師（1名）・医事（1名）
MSW（1名）検査（1名）庶務（1名）リハビリテーション（2名）
放射線科（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 各部所からのインシデント報告と集計・重要事例の検討：毎月
- ・ 医療安全管理委員長からの「リスクマネージャーの役割について」説明会
6月10日（金）
- ・ 昨年1年間のインシデント事例のまとめと報告と研修会の開催：5月27日（金）
インシデント事例ワースト1，2，3位の転倒、転落の分析報告
セミナー「離床センサー活用のポイント」
- ・ 次年度研修会の準備

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 多くのレポートが提出される部署と、明らかなインシデントと指摘があっても提出がないなど、各部所によってインシデントに対する温度差がある。職員に意識向上の必要性がある。
- ・ 各部署の特徴に合わせた事象内容とレベル分類の作成が必要。（事務部、診療部のレベルが入れにくい）
- ・ インシデントレポートの書き方に違いがあり、統一されていない。
事象、事例がわかりやすく、また、危険レベルの分類やカンファレンスに活かせる内容になるよう指導が必要。
- ・ 研修会開催 参加型で検討

教育委員会

人員構成

委員長： 本田 慎一郎

副委員長： 市来 史暢

委員構成：リハビリOT（1名）、看護師（2名）、調理師（1名）
在宅（1名）、総務（1名）、診療情報管理室（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ ストレスマネジメント研修会
- ・ 他部署体験
6月8日、15日、17日の3日間で実施。
新人、中途採用者から22名が参加。
- ・ 基本理念研修会（新人、中途採用者対象）
7月5日、12日の2日間で実施。
新人、中途採用者から38名が参加。
- ・ 基本理念研修会（全職員対象）
7月21日、25日、8月1日、5日、10日、17日の6日間で実施。
全職員対象。『隣人愛に基づく節度ある行動とは』をテーマに、グループワークや発表を行った。
- ・ 救急救命講習会
11月29日に実施。
13名が参加。平野医師を講師として、実技やコードブルーの説明等を行った。
- ・ 倫理研修（シニア体験）
9月20日、10月3日の2日間で実施。
18名が参加。社会福祉協議会より器具を借り、高齢者体験を行った。
- ・ リフレッシュ研修会
12月14日、1月17日の2日間で実施。
14名が参加。清岡PTを講師として、腰痛予防、ストレッチ等の指導を行った。
- ・ 院内合同発表会（基本理念研修）
3月1日～10日の期間で開催。
19部署が参加。『隣人愛に基づく節度ある行動とは』をテーマに、ポスター自説発表を行った。
発表会終了後、ポスターおよびアンケートをまとめた資料を院内に配布した。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 年間研修計画の立案
- ・ 院内合同発表会のありかたの検討

全人的ケア推進委員会

人員構成

委員長： 安倍 勉

副委員長： 岡田幸子

委員構成： 医師（2名）・管理栄養士（1名）・看護師（9名）
ケワーカー（2名）・薬剤師（1名）・医事（1名）
MSW（1名）・在宅（1名）・リハビリ（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 追悼会準備と実施
春期、秋期の2回を実施する。
- ・ 院内研修会の計画（八幡小学校 八耳教諭を招いて）
事例検討会（年3回実施）
- ・ がんセミナー 3回実施
1回テーマ：がん患者さんの生活を支えるあれこれ
2回テーマ：がんところの持ち方
3回テーマ：がん患者を支えるということ
- ・ チームケア推進
- ・ ターミナルケア講演会の実施
9月23日（金）
講師：柏木哲夫 金城学院大学学長
テーマ：いのちに寄り添う ホスピスケア

2012年度（平成24年）に向けての課題

チームケア、事例検討会の充実を図り、病院全体にチームケアを推進するための勉強、啓蒙活動に重点をおく。

がんセミナーについて、これからの持ち方を含め検討を要する。

ターミナルケア講演会への協力という位置づけの中、今後「ターミナルケア」という視点に止まらず病院全体として地域社会に向けてどのような発信ができるか検討する。

ホスピス活動に止まらず、病院全体として「ケア」のあり方についてチームケアの視点で取り組みを継続していく。

褥創対策　　委員会

人員構成

委員長： 平野 節

副委員長：

委員構成：医師（1名）・管理栄養士（1名）・薬剤師（1名）
看護師（4名）介護福祉士（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・褥創に関する情報収集と発信。
 - 院内褥創有病率、院内発生率等の把握
 - 持ち込み者の把握
 - 褥創回診
- ・栄養管理について。
 - NSTとの連携について検討
 - 栄養改善に向けた栄養食品への取り組み。
- ・除圧マット、エアーマットに関する調査
- ・褥創勉強会の開催。
 - 9月21日（水）「創処置について」
- ・電子カルテへの移行と周知、課題の確認と解決
 - 紙媒体と電子化との併用に伴う混乱への対策と解決

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・褥創に関するデータ化の継続。
- ・栄養管理に伴うNSTとの連携。
- ・研修会の充実。

ボランティア委員会

人員構成

委員長： 安部 勉

副委員長： 神 千草子

委員構成： チャプレン（1名）・看護師（4名）
看護助手（2名）・在宅（1名）医事（1名）庶務（1名）
老健（2名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 第31期、第32期ボランティア募集
募集への作業確認と役割分担
オリエンテーションの実施
- ・ ボランティアの健康管理と活動支援
健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施
ボランティア間、病院、老健との交流会
活動内容、活動時間などの管理
- ・ 活動の支援と協力体制

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ ボランティアの募集
ボランティア募集が低調に終わり、新規参加者が少なかった。
新たに募集方法を検討し、次年度は募集を増やしたい。
ボランティアの集い、ニュース発行などボランティア主体で活動した。
- ・ 職員への意識向上
ボランティア活動をされる方々へ職員の声かけなどボランティア活動への関心を持ってもらうことが急務。やりがい、充実感などボランティア活動に参加される方の思いを理解し実践するよう周知を計る。

院内感防止対策 委員会

人員構成

委員長：周防正史

副委員長：平野 節

委員構成： 病院院長・医局長・病院事務長・看護部長
診療技術部長・医事課長・診療検査技師長

感染防止対策チーム

看護部 5 名・栄養科 1 名・地域連携課 1 名
医事課 1 名・庶務課 1 名・薬局 1 名・リハビリ科 1 名

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 感染症患者の実態把握
MRSA・ノロウイルス・疥癬・インフルエンザ・ヘルペス等に関する状況の把握
- ・ 多剤耐性菌の検出状況確認
- ・ 薬剤（抗生物質）使用状況の把握
（抗MRSA系は届出制で管理する。）
各職場での衛生環境の確認と消毒薬の使用状況把握と指導
安全衛生委員会と共同で院内巡視を行なう。
（職場内の衛生状況、手洗いの励行、消毒薬の使用状況、咳エチケット等のポスター掲示状況を主に確認）改善の必要性を通達する。
- ・ 研修会の実施（3回実施）
4月 新規採用者対象の研修：「院内感染防止について」
7月26日（火）：「針刺し、接触感染について」
9月～10月：各職場での手洗いの精度検証を行なう。
- ・ インフルエンザ・ノロウイルスの院内感染を疑い、臨時の委員会を6回開催する。
感染拡大の防止に向け職員、入院患者、来院者への対策、周知について検討した。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 感染症患者の実態状況の把握等、昨年度と同等の内容で進める。
- ・ 感染防止対策についての他病院との連携準備
- ・ 研修会への参加者を多く得る為に研修方法を検討する。

診療情報管理 委員会

人員構成

委員長： 周防 正史

副委員長： 加賀爪 優子

委員構成： 医局（2名）・事務（1名）・看護師（5名）
診療情報管理士（1名）薬剤師（1名）・医事（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 入院診療記載の適正化
カルテ監査を計画する。昨年同様第三者評価とする。監査の重点項目は検査や診療後などの臨床評価所見の有無。検査、手術などの同意書、サインの有無。他カンファレンス内容と参加者名を確認する。期間は5月9日～5月25日 6月まとめを行なう。
- ・ 退院時要約（サマリー）及び看護サマリーの記入率のあげる
毎月の報告で記入率の確認を行なう。記入率の向上と周知をする。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ カルテ監査の続行。しかし監査を行なう場合のマニュアルが整備されておらず、監査の仕方に違いがある。マニュアルの作成が必要
- ・ 次年度、電子カルテの導入が計画されている。電子カルテへの対応策の整備が必要
- ・ 電子カルテに移行されるに当たり、紙カルテの取り扱いの具体的方策
- ・ 電子カルテの取り扱い ⇒ 同意書、紹介状等紙媒体の保管など

病院機能評価受審準備 委員会

人員構成

委員長： 塚本 和江

副委員長： _____

委員構成： 医師（2名）・事務（1名）管理栄養士（1名）・薬剤師（1名）
看護師（5名）・医事（1名）・総務（2名）・庶務（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 病院機能評価受審委員会規定の見直し
- ・ Vor6評価項目の自己評価の実施と改善に取り組む
病院全体、職員全体に該当する項目については割り当てと、該当部署への依頼と評価、改善を依頼する。
- ・ 各部署毎のインディケータの決定と確認。
- ・ 電子カルテに関する手順等々の見直し、移行作業

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 紙媒体から電子カルテ移行によるマニュアル類の変更
- ・ 受審予定の新バージョンに対する情報の収集
- ・ 平成25年の受審に向けて準備作業

安全衛生 委員会

人員構成

委員長： 古武まゆみ

副委員長：

委員構成： 産業医（1名）・衛生管理者（1名）・看護師（3名）
総務（1名）・健診室（1名）・職員会会長（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 全職員対象に「こころの健康」問診を実施し、結果を集計して院内合同発表会にてポスター発表を実施した。
- ・ 安全衛生委員会主催、近江八幡市福祉子ども部健康推進課による「心の健康 出前講座」を実施した。
- ・ 各部署の職場環境、衛生状態確認をチェック項目に添い院内巡視を実施し、改善箇所の確認と改善を図った。
- ・ 職員健診にメンタル面の問診を入れ、医師の診察を取り入れ、早期に職員のメンタルチェック、専門医の受診に繋げる。
- ・ 入社健診に水痘・流行性耳下腺炎・風疹の既往の問診を導入した。現職職員の麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘既往歴ワクチン接種状況を把握した。職員健診項目に HbA1C を追加した。
- ・ 職員へのインフルエンザワクチンの接種、新入職者への HB ワクチン接種（対象職種）
- ・ 針刺し防止のため、ポスターを作成し職員の啓蒙を実施した。H23 年度 1 件。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 電子カルテに移行することで職員カルテの管理、閲覧権限者の確定と運用
- ・ 職員のメンタルケアについて、社会資源を活用して取り組む。
- ・ 職員健診 100%の受診を目指す。（非常勤者・医師に注力）
婦人科健診の受診を徹底する。
- ・ 健診での異常通知者の再診率を上げる

個人情報保護委員会

人員構成

委員長： 澤谷 久枝

副委員長： 櫻井 卓哉

委員構成： 医師（1名）・薬剤師（1名）・看護師（1名）
医事（1名）・診療情報管理（1名）・在宅（1名）
MSW（1名）・放射線科（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 委員会規定の見直し。
- ・ 新入職者オリエンテーションでの個人情報保護についての教育と研修会の開催
誓約書の提出と管理
- ・ 各部署の PC 等の電子カルテ開始の向けての情報管理とセキュリティ強化について検討
USB の使用規制について。
院内ランの整備・職員アドレス管理について
- ・ 電子カルテを見据えた各部署の情報保護に関するマニュアルの見直し。
- ・ 個人情報に関する書類等が紛失した場合の扱いと、提出書類の整備と管理を決定
- ・ 個人情報保護の目的についての研修会
2月21日・3月1日・8日 3回開催
テーマ：「ITに関連して」JBCC 事業部

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 電子カルテ導入に伴い、個人情報保護に関する指針の見直し。
- ・ IT 対策室の情報セキュリティ規定の検討と見直し。
- ・ 個人情報に関するトラブルのルール（報告から終結まで）作り。
- ・ 個人情報に関する教育と研修会について
研修内容は昨年度の IT に関わる続編で検討する

クリニカルパス 委員会

人員構成

委員長： 神 千草子 _____

副委員長： _____

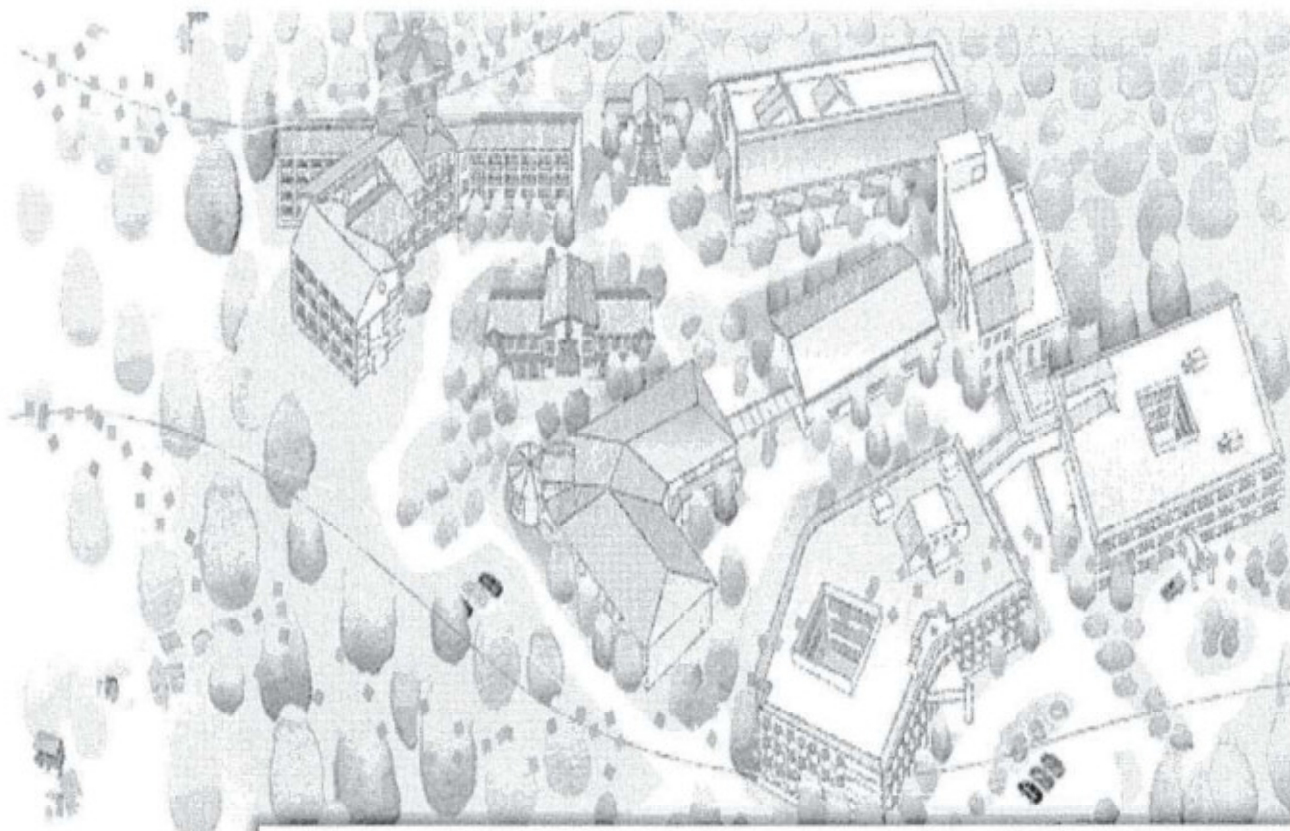
委員構成： 医師（1名）・管理栄養士（1名）・看護師（6名）
MSW（1名）・薬剤師（1名）・医事（1名）
リハビリ PT（1名）

2011年度（平成23年）の活動内容（成果）

- ・ 新規パスの作成
DM の教育入院パス・CF の一泊二日入院用・手根管開放術
- ・ 既存のパス使用状況と評価、バリエーションの分析
- ・ 各種パス用紙の PC 上での保管,管理について
- ・ 患者用のパス用紙の有効使用、修正箇所の検討について
パス用紙で入院オリエンテーションを行い、評価する。

2012年度（平成24年）に向けての課題

- ・ 電子カルテへの移行に向け、パスの運用と管理について
具体的活用と操作等々を含めた訓練と周知
- ・ 委員会の運営方法について



財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 年報

平成 23 年度

発行 平成 24 年 10 月

発行者 財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院
院長 周防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 4 9 2

TEL (0748) 32-5211(代) FAX (0748) 32-2152

URL <http://www.vories.or.jp/>